

チョウ目害虫抵抗性及び除草剤グルホシネート耐性

トウモロコシ 6275 系統の申請書概要

1. 申請品種（チョウ目害虫抵抗性及び除草剤グルホシネート耐性トウモロコシ 6275 系統）の概要

申請者：ダウ・ケミカル日本（株）
開発者：ダウ・アグロサイエンス社

遺伝子組換えトウモロコシ「チョウ目害虫抵抗性及び除草剤グルホシネート耐性トウモロコシ 6275 系統」（以下、「6275 系統」という）は、デント種に属するトウモロコシに *Bacillus thuringiensis* 由来の *cry1F* 遺伝子を一部改変した改変 *cry1F* 遺伝子、及び *Streptomyces hygroscopicus* 由来の *bar* 遺伝子を一部改変した改変 *bar* 遺伝子を導入したトウモロコシである。改変 *cry1F* 遺伝子を導入することにより、B. t. タンパク質（殺虫性タンパク質）が発現し、チョウ目害虫に抵抗性をもつ。また、改変 *bar* 遺伝子を導入することにより、PAT タンパク質（除草剤耐性をもたらす酵素）が発現し、除草剤グルホシネートに耐性をもつ。

なお、当該品種には選択マーカーは含まれていない。

2. 6275 系統の利用目的および利用方法

6275 系統が従来の特モロコシと異なる点は、チョウ目害虫に対する防除に必要な薬剤が不要であること、及び生育期の雑草防除に除草剤グルホシネートを使用できることであり、その飼料としての利用目的や利用方法に関して、従来のトウモロコシとの相違はない。トウモロコシは食品としての使用に加え、世界各国において長期にわたり飼料として利用されている。

3. 諸外国における申請等

2004 年 6 月 30 日に米国食品医薬品局（FDA）は飼料としての安全性の審議を終了した。

2006 年 6 月 19 日にカナダ食品検査庁（Canadian Food Inspection Agency）は飼料としての安全性確認を得た。

なお、申請資料は、「遺伝子組換え飼料及び飼料添加物の安全性評価の考え方」（平成 16 年 5 月 6 日 食品安全委員会決定）に沿って作成されている。